

島田 昱 郎 教 授 略 歴

(昭和3年(1928年)1月30日生)

- 1945 (昭和20年) 3月 (旧制) 秋田県立秋田中学校第5学年卒業
- 1948 (昭和23年) 3月 (旧制) 秋田鉱山専門学校 (現 秋田大学鉱山学部) 燃料化学科卒業
- 1952 (昭和27年) 3月 (旧制) 東北大学理学部岩石鉱物鉱床学科卒業
4月 東北大学理学部助手 (岩石鉱物鉱床学教室)
- 1962 (昭和37年) 2月 理学博士の学位取得 (東北大学 理-814)
(論文) Extractable Organic Constituents in Sediments, with Reference to the Relation Between Composition of the Chromatographic Fractions in Extracts and Depositional Environment.
- 1966 (昭和41年) 4月 東北大学教育学部 (現 宮城教育大学) 講師 (併任) (昭和42年3月まで)
5月 西会津地域広域調査、調査班長 (金属鉱物探鉱促進事業団)
- 1967 (昭和42年) 4月 東北大学教育学部 (現 宮城教育大学) 講師 (併任) (昭和43年3月まで)
6月 西会津地域広域調査調査員 (昭和45年3月まで) (金属鉱物探鉱促進事業団)
2月 日本岩石鉱物鉱床学会評議員 (4期、昭和50年1月まで)
- 1969 (昭和44年) 10月 宮城県農業短期大学講師 (非常勤) (昭和45年3月まで)
- 1970 (昭和45年) 4月 宮城県農業短期大学講師 (非常勤), 農林地質学担当 (昭和46年3月まで)
4月 西会津地域精密調査岩芯検討委員 (昭和47年3月まで) (金属鉱物探鉱促進事業団)
- 1971 (昭和46年) 4月 宮城県農業短期大学講師 (非常勤), 農林地質学担当 (昭和47年3月まで)
6月 東会津地域広域調査調査員 (昭和50年3月まで) (金属鉱物探鉱促進事業団)
- 1972 (昭和47年) 4月 宮城県農業短期大学講師 (非常勤), 農林地質学担当 (昭和48年3月まで)
5月 東会津地域精密調査岩芯検討委員 (昭和50年3月まで) (金属鉱物探鉱促進事業団)
- 1973 (昭和48年) 4月 宮城県農業短期大学講師 (非常勤), 農林地質学担当 (昭和49年3月まで)
6月 石油技術協会編集委員 (昭和56年7月まで)
- 1974 (昭和49年) 4月 宮城県農業短期大学講師 (非常勤), 農林地質学担当 (昭和50年3月まで)
7月 (海外出張) ポルトガル領チモール島の地質鉱床調査・研究
(ポルトガル チモール, 昭和49年7月15日～8月10日)
- 1975 (昭和50年) 4月 宮城県農業短期大学講師 (非常勤), 農林地質学担当 (昭和51年3月まで)
4月 山形大学教養部講師 (併任) (昭和50年9月まで)
- 1976 (昭和51年) 4月 宮城県農業短期大学講師 (非常勤), 農林地質学担当 (昭和52年3月まで)
8月 (海外研修) 第25回国際地質学会議 (25th IGC シドニー) 出席および鉱床地質の調査
(オーストラリア, ニュージーランド, 昭和51年8月14日～9月7日)
- 1977 (昭和52年) 4月 宮城県農業短期大学講師 (非常勤), 農林地質学担当 (昭和53年3月まで)
6月 (海外出張) 韓国西南部 全羅南道海南地域の白亜系 黑色頁岩の地質調査・研究
(韓国, 昭和52年6月20日～6月30日)
- 1978 (昭和53年) 4月 宮城県農業短期大学講師 (非常勤), 農林地質学担当 (昭和54年3月まで)
6月 島根大学文理学部講師 (併任) (昭和53年6月1日～6月30日)
- 1979 (昭和54年) 4月 宮城県農業短期大学講師 (非常勤), 農林地質学担当 (昭和55年3月まで)
5月 島根大学理学部講師 (併任) (昭和54年5月23日～6月30日)

- 11月 島根大学理学部講師（併任）（昭和54年11月8日～11月30日）
- 1980（昭和55年）4月 宮城県農業短期大学講師（非常勤），農林地質学担当（昭和56年3月まで）
- 6月 島根大学理学部講師（併任）（昭和56年3月まで）
- 7月 東北大学助教授（理学部），東北大学大学院理学研究科担当
- 1981（昭和56年）4月 島根大学教授（理学部）
- 11月 東北大学理学部講師（併任）（昭和57年3月まで）
- 1982（昭和57年）4月 東北大学理学部講師（併任）（昭和58年3月まで）
- 4月 山口大学工学部講師（併任）（昭和57年9月まで）
- 1984（昭和59年）1月 島根県温泉審議会委員（昭和60年12月まで）
- 1985（昭和60年）1月 石油技術協会編集委員（昭和60年1月～平成3年6月まで）
- 4月 島根大学大学院理学研究科担当
- 7月 鳥取大学教育学部講師（併任）（昭和60年7月31日まで）
- 8月 中国地域レアメタル賦存調査委員会 委員（昭和62年3月まで）（通商産業省）
- 11月 レアメタル賦存状況調査委員会 委員（昭和62年9月まで）（金属鉱業事業団）
- 11月 松江地域レアメタル賦存状況調査専門委員会 委員（委員長）（昭和62年9月まで）（金属鉱業事業団）
- 1986（昭和61年）1月 島根県温泉審議会 委員（昭和63年1月まで）
- 4月 東北大学理学部講師（併任）（昭和62年3月まで）
- 10月 山口大学理学部講師（併任）（昭和62年3月まで）
- 1987（昭和62年）4月 中国地域レアメタル賦存調査委員会 委員（昭和64年3月まで）（通商産業省）
- 8月 （海外研修）第16回太平洋学術会議（韓国、ソウル）出席（韓国，昭和62年8月19日～8月25日）
- 10月 （海外研修）国際シンポジウム「第4回錫・タングステン花崗岩の対比と資源評価」（中華人民共和国，桂林）出席（中華人民共和国，昭和62年10月21日～10月28日）
- 10月 レアメタル賦存状況調査委員会 委員（昭和64年9月まで）（金属鉱業事業団）
- 10月 松江地域レアメタル賦存状況調査専門委員会 委員（委員長），（昭和64年9月まで）（金属鉱業事業団）
- 1988（昭和63年）1月 島根県温泉審議会 委員（昭和65年1月まで）
- 4月 九州大学理学部講師（併任）（昭和64年3月まで）
- 4月 鹿児島大学理学部講師（併任）（昭和64年3月まで）
- 1989（平成元年）2月 香川大学教育学部講師（併任）（平成元年2月28日まで）
- 12月 レアメタル賦存状況調査委員会 委員（平成2年3月まで）（金属鉱業事業団）
- 12月 松江地域レアメタル賦存状況調査専門委員会 委員（委員長）（平成2年3月まで）（金属鉱業事業団）
- 12月 北島根地域（大森地区）精密地質構造調査 検討委員（平成3年3月まで）（金属鉱業事業団）
- 1990（平成2年）2月 島根県温泉審議会 委員（平成3年3月まで）
- 3月 中国地域レアメタル賦存調査委員会 委員（平成3年3月31日まで）（通商産業省）
- 4月 島根大学評議員（平成3年3月まで）
- 10月 山口大学工学部講師（併任）（平成3年3月まで）
- 1991（平成3年）3月 島根大学定年退官

島田晃郎教授の主な研究論文及び著書

学術論文

1953. 10 栗駒火山西麓緑色凝灰岩相地域の地質，とくに三途川・鬼首盆地の湖底堆積相について．（加藤磐雄と共著），岩石鉱物鉱床学会誌，37巻，5号，178-190.
1955. 5 古湖盆の堆積学的研究－鬼首湖成層の堆積状態について．地質学雑誌，61巻，716号，218-226.
1957. 2 現世堆積物の有機物の研究（第1報）－八郎潟底層の炭化水素．（加藤磐雄と共著），岩石鉱物鉱床学会誌，41巻，1号，9-15.
1958. 4 現世堆積物の有機物の研究（第2報）－八郎潟底層の有機物組成の層序的分布．岩石鉱物床学会誌，42巻，2号，82-89.
1959. 3 Organic constituents of the Alluvial lagoon sediments from the Hachiro-gata, Akita Prefecture. Sci. Rep. Tohoku Univ., Ser. III, Vol. 6, No. 2, 193-207.
1960. 4 現世堆積物の有機物の研究（第3報）－山形県沖陸棚堆積物中の有機物．岩石鉱物鉱床学会誌，44巻，2号，102-110.
- . 6 Distribution of organic constituents in the shelf sediments from the Japan Sea. Sci. Rep. Tohoku Univ., Ser III, Vol 6, No. 3, 499-512.
1961. 3 三陸沿岸南部，志津川湾を中心とする地域の最大波高分布について．（加藤磐雄，阿部正宏，阿部宏と共著），チリ沖地震津波調査報告集，宮城県．
1962. 3 宮城県鳴子町鬼首のけい藻土．（山岡一雄と共著），東北の鉱業用鉱物資源，第Ⅱ輯，259-263.
- . 9 八郎潟底層および十三湖層中の泥炭，かき殻の¹⁴Cによる絶対年代．（牛島信義，三位秀夫，木越邦彦と共著），岩石鉱物鉱床学会誌，48巻，3号，108-111.
1963. 3 Extractable organic constituents in sediments, with reference to the relation between composition of the chromatographic fractions in extracts and depositional environment. Sci. Rep. Tohoku Univ., Ser. III, Vol. 8, No. 3, 421-482.
- . 3 The origin of petroleum porphyrins : Pigments in some crude oils, marine sediments and plant material of Japan. (with Hodgson, G. W., Ushijima, N. and Taguchi, K.) Sci. Rep. Tohoku Univ., Ser. III, Vol. 8, No. 3, 483-513.
- . 3 青森県津軽十三湖地域の沖積層．（小貫義男，三位秀夫，竹内貞子，石田琢二，斎藤常正と共著），東北大学地質古生物邦文報告，58号，1-36.
1966. 3 東北地方における後期中新世の火山構造性陥没－仙台市西方の白沢層群の地質構造．（仙台団研グループ：藤田，小林，生出，柴田，青木，宇留野，八島，野村と共著），地団研専報，12号，112-126.
1969. 3 只見地域の地質（5万分の1「只見」地質図幅，同説明書），（伊沢寿昭と共著），福島県企画開発部，1-39.
1971. 3 Earthy vivianite from the Pleistocene lacustrine sediments in the Onikobe Basin, Miyagi Prefecture. (with Konno, H.) Sci. Rep. Tohoku Univ., Ser. III, Vol. 11, No. 2, 143-157.
1972. 9 西会津地域只見・金山地区における黒鉱鉱床地帯の地質構造．（平林武雄と共著），鉱山地質，22巻，4号，329-346.
1973. 1 西会津地域における西黒沢階－女川階の泥質岩に含まれるホウ素－ホウ素含量の層序的分布と古環境の関係．石油技術協会誌，38巻，1号，17-25.
1974. 6 Geology of the Aizu metalliferous district, Northeast Japan. (with Hayakawa, N., Shibata, T. and Suzuki, S.), Mining geology Special Issue, No. 6, Geology of Kuroko Deposits, 19-28.
1975. 3 小林地帯の地質（5万分の1「小林」地質図幅，同説明書）．（根田武二郎，黒江良太郎，伊沢寿昭と共

- 著). 福島県商工労働部, 1-29.
1976. 3 ポルトガル領チモール島の岩相層序および石油地質の概要. 石油技術協会誌, 41巻, 2号, 45-54.
- . 3 化石貝殻中の低分子炭化水素について. Res. org. Geochem., No. 1, 39-41.
- . 9 全羅南道海層群牛項里層に挟在する黑色頁岩の有機地球化学的研究. (李大聲, 林田進男と共著), 大韓鉱山地質学会誌, 9巻, 3号, 157-164.
1979. 7 福島県宝坂産オパール組織とその構成鉱物について. (秋月瑞彦と共著), 岩石鉱物鉱床学会誌, 74巻, 7号, 274-279.
- . 10 西会津グリーンタフ地域における酸性岩類の K-Ar 年代. (植田良夫と共著), 岩石鉱物鉱床学会誌, 74巻, 10号, 387-394.
1981. 5 秋田県矢島地域の女川層炭酸塩岩に関する堆積地化学的知見. (鹿野和彦, 根尾定文と共著), 石油技術協会誌, 46巻, 3号, 175-182.
- . 12 東チモールのグアノ型燐灰土の地化学探査に関する知見. 島根大学理学部紀要, 15巻, 139-147.
1982. 1 只見一片品構造帯の提唱—津川—会津地区における只見南部地域の地質構造. 地球科学, 36巻, 1号, 35-46.
- . 3 葛根田地域地熱変質岩と雫石脊梁地域同層準未変質堆積岩との比較—ビトリナイト反射率と粘土鉱物組成について—. (三谷守俊, 田口一雄と共著), Res. Org. Geochem., No. 3, 58-65.
- . 12 ガスクロマトグラフ—質量分析計 (GC-MS) の堆積地質学への応用—島根半島中新世泥質岩中の炭化水素分析の例—. (鈴木徳行と共著), 島根大学地質学報告, 1号, 53-60.
- . 12 堆積岩中のステロイド炭化水素 (5α -C₂₇, C₂₈, C₂₉ ステラン) —とくに古環境との関係について. (鈴木徳行と共著), 島根大学理学部紀要, 16巻, 125-142.
1983. 3 山形県新庄盆地大芦沢, 大俣, 白玉川, 小国川ルートの地質. (田口一雄, 相原安津夫, 秋山雅彦, 石渡良志, 市原優子, 井本伸広, 歌田実, 斎藤靖二, 佐々木清隆, 下田右, 下山晃と共著), 堆積学研究会誌 (堆積岩の続成作用に関する研究特集号), 1-11.
- . 3 堆積岩の熱史の指標としてのステラン・トリテルパンのエピ化に関する研究. (鈴木徳行と共著), 堆積学研究会誌 (堆積岩の続成作用に関する研究特集号), 47-55.
- . 8 A comparative study of geothermal and non-geothermal areas with respect to vitrinite reflectance—Case studies in the Kakkonda and the Hijiori geothermal fields, Northeastern Japan. (with Taguchi, K., Mitani, M. and Inaba, T.), Extended Abstracts WRI-4, Misasa, Japan, 455-458.
1984. 6 隠岐島後新第三系中の海緑石. (矢野寛幸と共著), 島根大学地質学報告, 3号, 121-128.
- . 6 隠岐島後下部中新統中にジュール状に産出するワイラカイト. (鳥居直也, 吉村尚久と共著), 島根大学地質学報告, 3号, 129-137.
- . 6 隠岐島前西ノ島の新第三系. (苗村誠と共著), 島根大学地質学報告, 3号, 155-160.
1985. 3 山陰グリーンタフ地域における隠岐島後の海緑石にまつわる問題. 山陰地域研究 (自然環境), 第1号, 81-92.
- . 6 泥質岩の化学分析から求めた鉱物組成に関する2・3の問題. 島根大学地質学報告, 4号, 81-89.
1986. 3 島根半島の新第三系泥質岩の抽出性有機物. (鈴木徳行, 矢野寛幸, 木幡信弘, 高橋尚彦, 前田正光と共著), 山陰地域研究 (自然環境), 2号, 91-103.
- . 3 西会津地域における後期中新世の八塩田湖成層. (黒江良太郎, 鈴木徳行と共著), 北村信教授記念地質学論文集, 383-392.
- . 6 島根半島の中新世泥質岩の堆積鉱物相. (石黒靖彦と共著), 島根大学地質学報告, 5号, 43-50.

1986. 12 中新世海緑石の層準とその石油地質学的意義. 田口一雄教授退官記念論文集(石油鉱床学の諸問題), 149-160.
- . 9 西山・中央油帯におけるバイオマーカー有機地化学相. (鈴木徳行, 田口一雄と共著), Res. Org. Geochem., No. 5, 11-16.
1987. 3 島根県東部におけるモリブデン鉱床の輝水鉛鉱中のレニウム. 山陰地域研究(自然環境), 3号, 143-148.
- . 6 能登半島の中新世燐鉱床に関する堆積地化学的知見. (村中英寿と共著), 島根大学地質研究報告, 6号, 101-106.
1988. 3 簸川平野沖積層の水溶性天然ガスに関する覚え書. 山陰地域研究(自然環境), 4号, 35-42.
- . 6 玖珂層群の層状チャートに伴う炭質岩について(予報). (藤江信哉, 渡部暉夫と共著), 島根大学地質学研究報告, 7号, 77-84.
- . 6 古環境解析と Uniformitarianism. Res. Org. Geochem., No. 6, 61-64.
- . 11 能登半島珠州および氷見一灘浦地域の第三系泥質岩の有機物相. (村中英寿と共著), 石油技術協会誌, 53巻, 5号, 463-474.
1989. 3 島根県東南部小馬木のハロサイト粘土鉱床について. (柳原一宏と共著), 山陰地域研究(自然環境), 5号, 13-18.
1990. 3 島根半島の中新統泥質岩の有機変成. (山本順三と共著), 山陰地域研究(自然環境), 6号, 65-76.
1991. 3 島根県の地下資源に関する諸問題. 島根県地学会会誌, 6号, 1-6.

著 書

1984. 12 新版 地学ハンドブック. 大久保雅弘・藤田至則編, [鉱床]分担執筆, 築地書館
1985. 8 島根県の地質. (第Ⅲ部 地下資源, 編 分担執筆), 島根県
1986. 3 新生代東北本州弧地質資料集. (北村信編, 第3巻—その7—島弧横断ルート No. 28, [柏崎~守門岳~只見~会津若松~群山], 鈴木敬治・島津光夫・真鍋健一と分担執筆) 仙台, 宝文堂.
1987. 11 日本の地質7「中国地方」. (編集委員会編, 第5章 地下資源, 分担執筆), 共立出版.
1990. 3 悲劇の島・東チモール—その自然と人々—. 築地書館.

報告書・資料

1953. 2 雄物川水系皆瀬川貝沼堰堤地質調査報告(加藤磐雄と執筆), 東北地方建設局.
1954. 3 長野油田第三系石油母層の分析調査報告(加藤磐雄と執筆), 帝国石油株式会社技報.
1955. 3 岩手県雫石盆地第三系石油母層の分析調査報告, 帝国石油株式会社技報.
1958. 12 出羽丘陵地地質構造調査報告(E班, 飽海地域), 石油資源開発株式会社内報.
1961. 10 現世堆積物中の抽出性有機物(地球化学討論会資料集(秋田大学)), 地球化学研究会.
1967. 7 「西会津地域」広域調査報告書(昭和41年度, 調査班長として執筆), 通商産業省.
1968. 11 「西会津地域」広域調査報告書(昭和42年度, 班員13名共同執筆), 通商産業省.
1970. 2 「西会津地域」広域調査報告書(昭和43年度, 班員16名共同執筆), 通商産業省.
- . 10 「西会津地域」広域調査報告書(昭和44年度, 班員10名共同執筆), 通商産業省.
1971. 12 「東会津地域」広域調査報告書(昭和45年度, 班員19名共同執筆), 通商産業省.
1972. 12 「東会津地域」広域調査報告書(昭和46年度, 班員19名共同執筆), 通商産業省.
1973. 2 西会津グリーンタフ地域の地質構造と鉱化帯(総合研究(A):東北地方における第三紀地殻変動に関する構造地質学的研究, 代表:北村信(東北大), 昭和47年度報告集).

- 8 「東会津地域」広域調査報告書（昭和47年度，班員19名共同執筆），通商産業省資源エネルギー庁．
1974. 8 「東会津地域」広域調査報告書（昭和48年度，班員22名共同執筆），通商産業省資源エネルギー庁．
1975. 10 「東会津地域」広域調査報告書（昭和49年度，班員5名共同執筆），通商産業省資源エネルギー庁．
1981. 3 大芦沢ルート地質調査報告（総合研究(A)：堆積岩の続成作用に関する研究，連絡誌 No. 1，代表：田口一雄（東北大）ほか8名）．
1982. 3 新庄盆地東線小国川ルート調査報告（総合研究(A)：堆積岩の続成作用に関する研究，連絡誌 No. 2，代表：田口一雄（東北大）ほか8名）．
- 3 出羽丘陵大俣川・白玉川ルート調査報告（総合研究(A)：堆積岩の続成作用に関する研究，連絡誌 No. 2，代表：田口一雄（東北大）ほか7名）．
- 5 西黒沢階－女川階の環境変遷にまつわる2・3の問題（「西黒沢期に関する諸問題」討論会資料集（新潟大）），日本地質学会．